

第八十五号

柳井市白壁の町並みを
守る会
事務局(皿田治)
TEL:090-1012-4204

新年のご挨拶

会長 木 阪 泰 之



新年明けましておめでとうございます。昨年五月に佐川前会長からバトンタッチさせて頂きました。新型コロナウイルスの影響が地域や国内に留まらず世界中に広がり二〇二〇年は試練の年の始まりとなりました。当会におきましても各種事業や催事の中止や縮小を余儀なくされましたが、会員の皆様のご理解とご協力を頂戴し「肝」の事業を繋ぐことが叶いましたこと、心より感謝申し上げます。今更ながら、諸先輩方の積み重ねてきた地域での絆力に敬意を表する次第です。

今回パンデミックの蓋が開き、世の中は五年〜十年先にタイムスリップすると報じられています。今後、「たまたまば考動」

(玉手箱+考える+行動を組み合わせた私の造語です)を意識した活動をスピード感を増して取り組んでいく必要があると感じています。今回のこと、『そのうち、

そのうち・・・』と先延ばしにしていた二つの案件が喫緊の課題です。一つ目は、当地区の継承問題です。昨年末に、同じ伝建地区である萩市の浜崎伝統的建造物群保存地区(二〇〇一年選定)の取組がNHK等マスコミで報じられています。選定年こそ柳井の方が古いのですが、規模や歴史は流石に萩市の伝建だけあって奥が深いです。今回の取り組みに関して全容を把握している訳ではありませんが、文化財室の守田氏に依頼し情報の収集と共有に努めているところです。年明け一月三日に、妻と二人で浜崎地区を訪問し短い時間でしたが地元の方からも情報を収集しました。今後、役員会や総会等で皆様に情報提供とお諮りし、ご意見やご要望を頂戴出来ればと存じます。

二つ目は、町並みの金魚ちようちん装飾の件です。通年装飾に関していろいろな意見があるのは承知しておりますが、近年の金魚ちようちんの認知度の向上の流れの中で、せめて当該町並み内に於いて全てを行政に頼らない方法でそれを実現する手法を真剣に論じる必要がある時期とも感じています。それはいつも一〇〇%ではなく、シ

ズンに於じて硬軟を使い分け五〇%でも七〇%でも構わないと思えますし、四季折々の風情を感じる光景を醸し出すだけでも良いと思います。また、二〇〇年の時間を経てデザインや形状が時代に於じて変化してきた金魚ちようちん、基本は忠実にしながらも絶えず創意工夫しこれからの時代は金魚ちようちんの創造に挑戦することも現状打破に繋がるのかも感じます。

今までもそうでしたが、今後は益々『言うた人がやる』時代です。当会が、実働部隊というよりはアメリカンフットボールのQB(司令塔)の様な存在で先導するスタイルでも構わないとも感じています。不確かな要素が多い時代は、足を一步前に踏み出すという単純な行為が、とても重要な意味を持ちます。これまでに学んだことを胸に、この新しい年(時代)のスタートにしたいと思います。

会員の皆様、実り多い一年にしましょう。そして二〇二一年を課題に取り組む元年にしましょう。どうぞよろしくお願い申し上げます。(勿論、弘前の皆様との交流は継続して参りますよ。)



令和三年 木阪泰之

コロナに負けるな 火のよ〜じ〜ん カッチカチ！

平成十一年にスタートした年末防災夜回りも今年で二十二回目を迎える。例年の環境は三蜜の典型とも云えるものであったため実施すべきかどうか大いに悩んだが「継続こそ力なり」を信条として木阪新会長の決断の元、武居幹事を中心にコロナ感染防止対策を練り上げ実施することと相成った。

まずは時間の短縮。これまでの二日間三回を二十八日だけの一日二回に短縮。二番目は本陣の変更。これまでの尾林家の蔵からお互いの間隔を広くとれる町並み資料館に変更。最後は飲食の禁止。これまで陣中見舞いとして受け入れていた日本酒の持ち込みも厳禁となり残ったお酒のお楽しみあ



みだくじも中止と相成ったのであります。が〜ん！これまでこれを楽しみに一度も欠席したことのないことをのどくしたく叫んでの祭りでありま

した。
当日午後七時半に集合開始。マスク着用を確認の上、全員手のアルコール消毒。集まったのは大人八名に子供五名の合計十三名。その他に新聞社二社が取材に駆けつけていただいた。

本陣の提灯の前で集合写真を撮った後、白壁通りにて木阪会長の音頭で「エイエイオー」の三連呼。例年だと古市コースと金屋コースの二班に分かれて同時スタートするとところだが、今年は一回目は古市コース、二回目は金屋コースと全員で回ることにした。

「火の用心、マッチ一本、火事の元」カッチカチ「火の用心、コロナに負けるな、火事の元」カッチカチ。昨年に比べ今年はなんと暖かかったことか。過去には雪がちらつくこともあった経緯からできる限りの厚着にマフラー、手



袋、ブーツの完全装備は完全に裏切られ酒も飲まないのに暖かいのなんの。
途中、古市の防火の守り本尊、宝来橋袂に建つ愛宕大権現火伏地藏様に向かって「お地藏様ありがとうございます。お蔭様でこここのところ古市・金屋地区で火事は出ておりません。これからもどうぞよろしくお願いします。」と念じながら大きな声で「火のよ〜じ〜ん」と唱えたのでありました。「火の用心、子供の火遊び、火事の元」
「火の用心、大人の火遊び、火事の元」遂に出来ました。これは佐川前会長が最初に唱え出した名せりふ。はい、分かりました。大人の皆さん、くれぐれも気を付けましたうね。
最後にいつも参加していただいている子供たちの名前を記し感謝の意を表したい。
岸田稔音ちゃん、治稔君、稔実ちゃん、中本結瑞ちゃん、彩瑞ちゃん。

白壁通りにて、托鉢

柳井広域仏教会会長 桑原一真 守る会会員

柳井広域仏教会(市内一七ヶ寺)では、毎年十二月に歳末助け合い募金として托鉢を行っています。午前中に大畠地区、午後柳井市内を回っています。柳井市内のコースは白壁通りを中心に回っています。手甲、きやはんに編み笠をかぶり、ほら貝を先頭にゆつくりと歩いていきます。「こちらは柳井広域仏教会です。歳末助け合い募金の活動として托鉢をしております。どうぞよろしくお願いいたします」。の掛け声のもと、募金をお願いしています。白壁通りを回ると毎年決まった方が待っておられ、浄財を寄付されます。有難いことです。市内を回るとやはり柳井市の中心は白壁通りであり、この通りのおもむきとよさがわかります。ふと江戸時代にタイムスリップしたような不思議な気になります。柳井にとつてとても大事な通りであると思います。(もつと人通りがあるといいのですが)

柳井広域仏教会は現在、加入寺院一七ヶ寺で活動しています。四月にある「花祭り」に始まり、総会、講演会、托鉢等のチャリティ活動を行っています。「布施とは相互扶助、布は広く、施は与えるのではなく、

仏様や多くの人々、大自然に生かさされる恵みを受けたお返し」の趣旨のもとに活動しています。特に力を入れているのはチャリティ事業です。まさに布施行です。

十一月には柳井祭りでの募金活動やチャリティゴルフコンペ、十二月にはチャリティカラオケ、托鉢が主なチャリティです。集まった浄財は毎年、社会福祉協議会に持ち参しています。新型コロナウイルスの影響で大変な制約を受けている学校にと教育委員会に五十万円の寄付をしています。社会福祉協議会へは毎年三十万円お届けしています。また、今まで東日本大震災や熊本地震、豪雨災害、ネパール地震などにも義援金をお届けしています。これからも「恵を受けたお返し」をしっかりとしていきたいと考えています。

合掌



おひなさま巡りへの協力依頼

今年で二十一回目となる「商都柳井 おひなさま巡り」の準備を進めております。期間は二月二日(火)から三月二十八日(日)まで。昨年は「花香遊」が中止となりましたためウオークラリーもそれに伴って中止となりました。観光協会に確かめたところ状況が許せば今年は三月二十一日(日)の開催予定となっております。実施の方向で準備をして置きたいと考えております。

これまでおひなさま展示にご協力いただいている皆様方には今年も是非参加していただきたいこの場をお借りしてお願い申し上げます。

加えて、会員の皆様にお願いがあります。主会場となります町並み資料館では数多くの七段飾りの設営・飾り付け及び撤去をしなければならぬため人出を動員する必要があります。休館日である二月一日(月)に設営・飾り付け、三月二十九日(月)に撤去作業を行いますのでご協力の程お願い申し上げます。いままで毎年お手伝いいただいている常連会員も高齢化で目は悪くなるし記憶力も低下して来ており「はくこの官女さんにはなにを持たせるんじやつたかいの？」と一向に作業がはかどらない状況であります。参加希望の若手会員方奮って事務局までご連絡を。(皿田)

柳井の地図絵図

岸田稔明

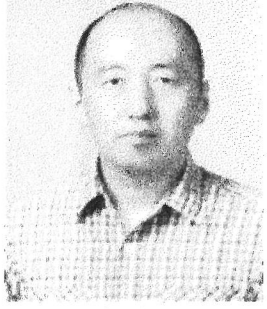
第二十八回 柳井町市街全図

(明治四十三年)

『柳井町市街全図』は、明治四十三(一九一〇)年に刊行された鎌倉成治著『柳井案内』(藤田文友堂)に付録の市街図である。

明治三十八(一九〇五)年に柳井津町、柳井村、古開作村が合併し、柳井町が誕生した。この地図は、柳井町発足後五年が経過した当時のものである。

明治四十一(一九〇八)年末の柳井町の戸数は二千七百十八戸、人口は一万二千七百九十七人であった。その五年前は、三町村合わせて二千二百六十七戸、一万二千四百二十八人であったので、増加基調にあったことが分かる。ちなみに百十二年経過した令和二(二〇二〇)年末の旧柳井町の人口は、七千八百二十世帯、一万五千九百二十七人である。



柳井津駅が明治三十(一八九七)年に開業し、柳井津から駅に向かつて新しい町並みが

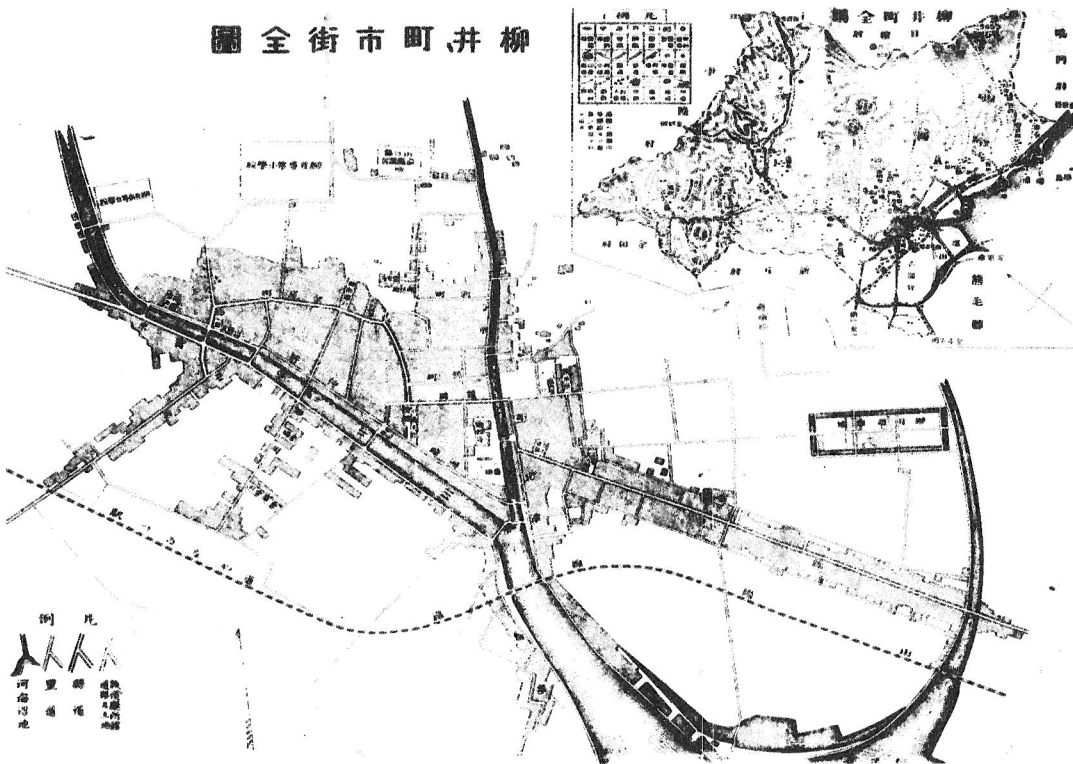
出来ている様子がわかる。その通りは「柳町」と名付けられ、「劇場」や「倉庫会社」の文字が見える。また、本橋が架けられ、周防銀行(現在の町並み資料館)に向かって道路が完成している。

古市・金屋をはじめとする町並みには、いくつかの銀行が記されている。宝来橋そばには「山陽支店」(山陽貯蓄銀行支店)、現在の町並み資料館の所には周防銀行、現在のきじやの向かいには平生支店(平生銀行支店)、亀岡通りには日商支店(日本商業銀行支店)、天神通りにはカホ支店(華浦銀行支店)がある。中でも周防銀行は、本店が柳井にあり、当時資本金が百二十五万円に及び、県内で最大の資本金を持つ銀行に成長していた。

また、主要公共施設も町並みの中に立地していた。両運橋のたもとには柳井町役場、日商支店の西隣には警察、土手町には郵便局、柳井まちなか駐車場のところには裁判所がある。

一方、周辺には、広い敷地にくつつかの施設が立地している。現在の文化福祉会館の場所には柳井高等女学校、柳井小学校の場所には、普慶寺南から移転した柳井尋常小学校、サンビームやないの場所には山口県染織講習所などが立地している。

柳井町市街全図



【柳井町市街全図(藤田文友堂発行)】

このように、明治時代後半になると、鉄道駅に向かって市街地が形成され始め、広い敷地を必要とする施設が市街地北側に立地し、市街地が拡張し始めた様子が分かる。

商部柳井の歴史 その十五

松島 幸夫

柳井津の経済発展(八) 豪商の文化活動

前回は、新興商人たちが菜種油で大財を稼いだけれども、撤退に追い込まれた経緯を紹介しました。

今回は、豪商が大財を成した結果、文化活動にも力を入れた例を見てみましょう。柳井津町の豪商たちは、文化活動に熱心になりました。巧みな商業活動だけでは、半人前に見なされたのです。和歌、俳諧、歴史学、歌舞、茶道、華道、香道など何でもよいのですが、商業以外に、文芸の道を極める人格が求められたのです。守田家では旁通(まさみち)が、和歌と郷土史の研究に卓越した才能を発揮しました。

一 文化活動を支える経済力
新庄から柳井津町に移住して手船商を始



めた守田通隆を一代目として、三代の英通(ふさみち)が菜種油で財を成し、吉川家への出入りを許されるま

でになります。跡を継いだ四代の旁通は、店の経営はもちろん、武道や学問に群を抜いた才能を発揮しました。

旁通は新酒販売にも手を出して経営の拡大を図りました。吉川領主には多額の御用立てを行って「永代浪人格」になっていきます。方々の神社にも寄進を行っています。

また、弟や手代たちを開業の資金を与えて、「のれん分け」もさせています。家業を柳井津町のトップクラスにまで高めた旁通は、商売の実務を番頭に任せながら、自らは文化活動にも専念する余裕を生み出しました。

二 桂園派の和歌

岩国吉川家の重臣で学問に秀でていた香川家には次男の景継がいました。和歌が達人な景継は、京都へ出て桂園派を主宰しました。桂園派は京都のみならず、岩国城下にも広まります。

江戸時代には、和歌は公家や上級武士が詠むもので、商人は主に俳諧を嗜んでいました。守田旁通は、岩国の武士にならって、文化十四年(一八一七)に、桂園派の門人になっていきます。和歌を嗜んだ旁通には、將軍家から信頼された伊予河野家の一族から派生したとの自負心があったのでしよう。

和歌を詠む際には、自分を越智旁通と表記しています。越智とは河野氏の別姓で、同義です。戦国武将の系譜を意識しています。

彼の辞世の句は、瑞相寺の墓に「二つなき三つなき法の教えにて 花のうてなに宿る白露」と刻まれています。悟りの境地に達していたことが読みとれます。

三 柳井の歴史研究

柳井の歴史や地理も深く研究しています。「上古国防国大名寄」など著作があります。「名寄」では古代の当地における多くの地名や古跡を寄せ集めて解説しています。国学者としての素養を身に付け、難解な古文書を研究し、現地を訪ね歩いて完成した労作です。

また、柳井の名の由来を皆さんに知らしめたのも旁通です。柳井の由緒については、用明天皇が皇太子であった時に結婚を約束した般若姫が都に上る際、当地に立寄った際の逸話に係していることは、皆さんよくご存じです。炎天下に当地の井戸水を飲んで活力を取り戻し、井戸の脇に柳の楊枝を差して、大木になったとの伝説です。湘江庵には「柳井山」と題し、その由来を刻んだ石碑が建っています。旁通が撰文を著わして寄進した石碑です。柳井の住民に由来を知ってほしいと願って建てました。



【守田旁通が建てた石碑】

資料館便り

『幸せはすぐそばに』

副会長 山近絹代

例年仕事始めの日は、帰省客や遠方からの旅行客で賑わうのだが、外出自粛でいつもと違い静かな年明けだった。

昨年三月以降ツアー客は一度も来られなかったが、十一月初めに久しぶりに、福岡からクラブツーリズムの方々が来られた。コロナ対策で、バス一台に十二人限定とのことだが、添乗員さんは「やっと来れました」、お客様も「来れて幸せ」と話しておられた。

古い町並み好きの方が個人で、ほぼ全国から来られた。嬉しく思うのは若い人が多いことだ。「伝建地区一〇〇ヶ所くらい行っている」という青年も。

入国制限もあり海外からのお客様はめっきり減ったが、十二月初めにメキシコの方が広島在住の友人家族と一緒に来られた。私の説明を友人(メキシコ人)の日本人の奥様が英語でご主人に伝え、ご主人がスペイン語で来訪客に伝えるという複雑な手順であったが、楽しかった。建築関係のお仕事の方で、「漆喰」に興味を持たれ、詳細をスマホで調べて伝えたが、その時英語では日本の漆喰は、SHIKKUIとして知

られていることが分かり勉強になった。

最近茶臼山古墳に興味を持ってこられる方が増えている。総じて若い方。先日NHKでも古墳を取り挙げた放送があったが、古墳の存在する場所として柳井地域も含まれていた。当館でもこの地域の古墳につき、「古熊毛水道想定図」を示しながら説明することがある。先日田布施の方にお話をしたら、「家の近くに古墳がある理由が分かった。帰ってからみんなに教えたい」と、張り切って帰って行かれた。

お鐘金魚さんの人気は相変わらずで、皆さん、結構時間を使って楽しんで帰られる。昨年年末当館に五色の金魚ちょうちんが五セット飾られた。これは柳井市商工観光課が昨年オリンピックの開催に合わせて準備したものであるが、オリンピックの延期に伴いとりあえず当館で飾って、皆さんに楽しんでいただこうというもの。今年こそコロナ禍が終息して、オリンピックの開催される、希望に満ちた年となることを祈りたい。

白壁通りに彩を添えていた金魚ちょうちんが十一月末に外され寂しくなっている。当会では、例年通り白壁通りを中心におひなさまを飾る「おひなさま巡り」を二月二日より開催することにしており、そのころには出番がなくなっている金魚ちょうちんも帰ってきて、華やかな春の演出に参加してほしい。おひなさまも待っていますよ。まだまだコロナのお付き合いが続くようだが、その中においても「幸せ」を感じながら心豊かに過ごしたいものである。

令和2年度第3四半期 町並み資料館入館者一覧

	R2/ 10-12	R2/12末 現在累計
町並み資料館		
入館者数	3,220	284,337
前年同期比	65.8%	
松島記念館		
入館者数	969	105,645
前年同期比	89.1%	

【編集後記】

・新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはそれぞれに明るいお正月を過ごされたことと拝察します。昨年は、コロナ、コロナで1年があっという間に過ぎてしまったようです。前号の小欄では、誇らしげに柳井広域圏で感染が発生していないと書きましたが、その後の第3波の急激な伸びに合わせて、さしもの柳井地域でも1月11日現在、累計18人もの感染者が出ております。皆様、ご用心を！

・当会では、伝統行事を守るべく、万全の感染対策を取った上で、年末夜回りを実施しました(本紙P2)。その心意気や良し、です。今後もこうありたいもので、2~3月のおひなさま巡りも、皆様のご協力のもと成功させたいものです。

・昨年10月に、糖尿病月間の青い金魚ちょうちんが撤去されて以降、白壁通りの金魚ちょうちんの姿が消えて寂しくてたまりませんでした。本紙P1の木阪会長のご挨拶、本頁の山近副会長のお便りの原稿をいただき、同志を得て嬉しく思っている、1月9日の中国新聞、岩柳版トップに、堀普也記者がこの問題を取り上げてくれました。10年前に柳井市が常時飾付を決断してくれた時には、地元住民の協力も前提でした。高齢化した住民の補完を当会会員が果たし、白壁通りの金魚ちょうちんが蘇ることを祈ります。(事務局 國森)